

人工種苗「土佐のあゆ」の種苗性評価事業

1 目的

近年、県内のアユ漁獲量は河川環境の悪化などによって減少している。このため各河川では、内水面漁協等が中心となり、アユ資源の保全・回復を目的とした種苗放流が行われている。その放流種苗には、安全性（天然アユに疾病被害をもたらす冷水病やエドワジエラ・イクタルリ感染症等の原因菌を持たないこと）や、遺伝的多様性（天然アユ資源の遺伝的攪乱を防ぐため、天然アユと同等の遺伝的多様性を持つこと）が求められる。

そこで本県では、高知県内水面漁業協同組合連合会（以下、内漁連）と連携し、安全性及び遺伝的多様性の確保された県産人工種苗「土佐のあゆ」の生産・放流に取り組んでいる。

本事業では、県産人工種苗の安定的な生産や放流体制の維持を目的として、以下の取り組みを実施した。

2 調査項目

- (1) 放流用人工種苗の生産に用いる天然親魚の採捕、養成及び保菌検査
- (2) 放流用人工種苗の遺伝的多様性の評価
- (3) 放流用人工種苗の保菌検査
- (4) 人工種苗の放流効果の把握

なお、上記の(4)について、今年度は四万十川上流部における放流個体の生息状況を調査した。この調査は天然遡上個体の生息状況調査と併せて実施したため、「四万十川水系におけるアユ生息状況調査」として、別途とりまとめた。